

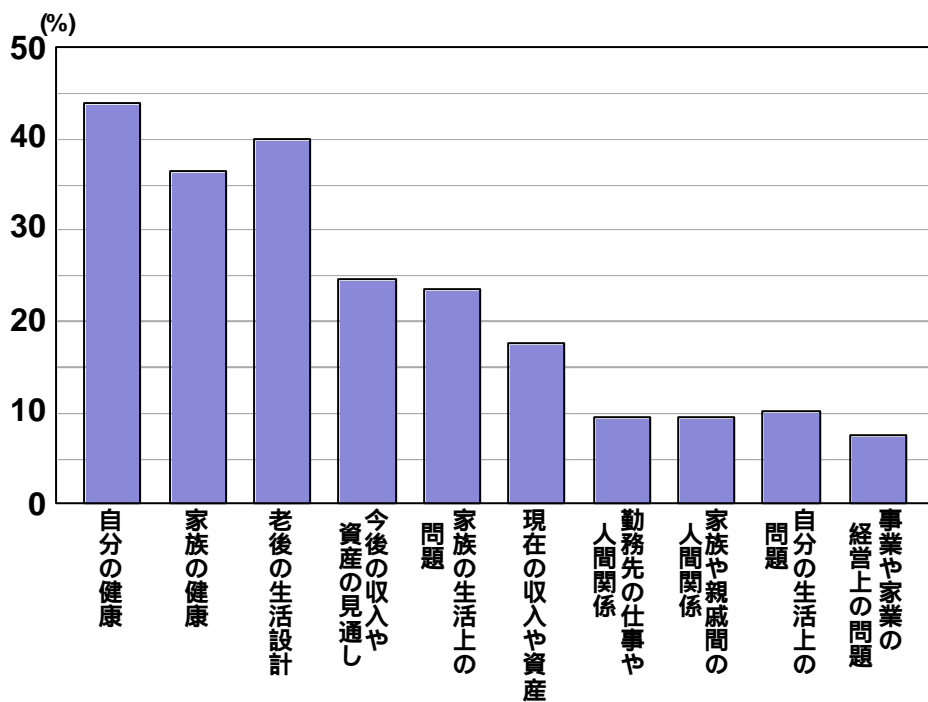
食の安全と安心をめざして

食品安全委員会 委員長
寺田雅昭

平成16年7月2日

食品に関するリスクコミュニケーション（東京）
～ 食品安全の新たな取組みの1年とこれから～

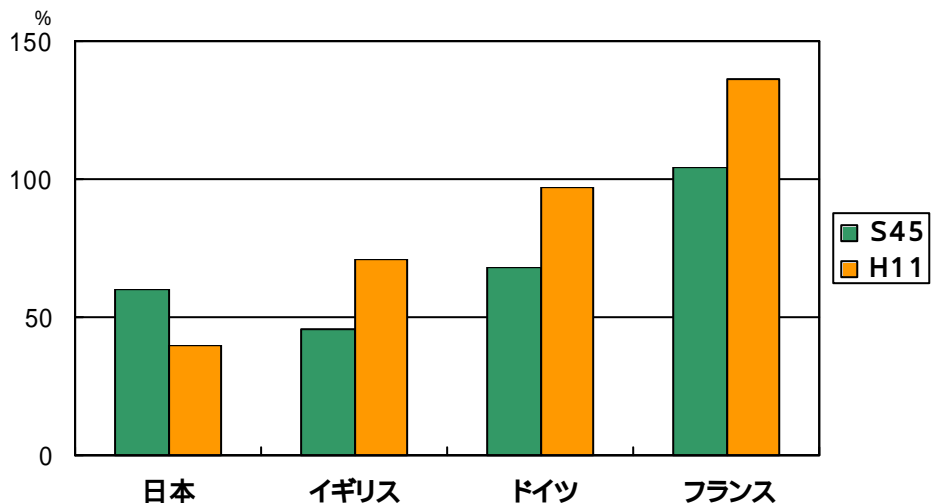
国民生活における関心事項の割合



食品の安全性への関心

- ◆ 食中毒や食品汚染
 - ・大腸菌O157
 - ・サルモネラ
 - ・狂牛病
 - ・ダイオキシン
- ◆ 大量生産
- ◆ グローバル化—輸入食品
- ◆ 新技術—組み換え食品
- ◆ 健康への関心の高まり
- ◆ 情報化社会

主要先進国の総合食料自給率 (カロリーベース)



資料: 農林水産省「食料需給表」、FAO「Food Balance Sheets」を基に試算

これまでの行政対応の問題点

「BSE問題に関する調査検討委員会報告」においては、

- 1)危機意識の欠如と危機管理体制の欠落
- 2)生産者優先・消費者保護軽視の行政
- 3)政策決定過程の不透明な行政機構
- 4)農林水産省と厚生労働省の連携不足
- 5)専門家の意見を適切に反映しない行政
- 6)情報公開の不徹底と消費者の理解不足

等がBSE問題にかかわる「行政対応の問題点」として指摘されている。

今後の食品安全行政のあり方について

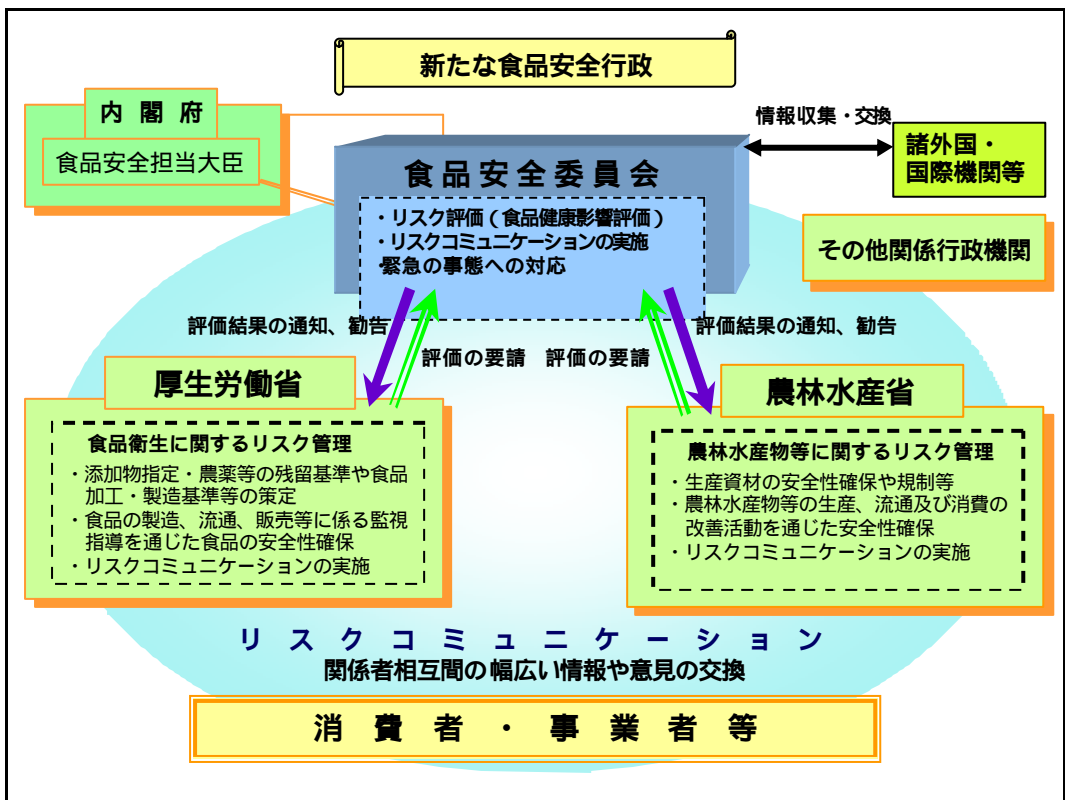
- **消費者の健康保護を最優先**に、食品安全行政にリスク分析手法を導入し、食品の安全に関するリスク評価を行う食品安全委員会を新たに設置
- **消費者の保護**を基本とした包括的な食品の安全を確保するための法律として食品安全基本法を制定

リスク分析

- ◆ ある集団がハザードに曝露される可能性のある時、その状況を科学的に分析し制御する過程でリスクを最小にすることを目的とする
- ◆ リスクアセスメント
リスクマネジメント
リスクコミュニケーション

リスク分析手法の導入の利点

- 事故の未然防止体制の強化
- 「科学」と「行政」の分離
- 政策決定過程の透明化
- 消費者への正確な情報提供
- 食品安全規制の国際的整合性の確保



食品安全委員会の組織

委員会

常勤4人 非常勤3人

専門調査会

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 企画 | 9. 微生物 |
| 2. リスクコミュニケーション | 10. ウイルス |
| 3. 緊急時対応 | 11. プリオン |
| 4. 添加物 | 12. かび毒・自然毒等 |
| 5. 農薬 | 13. 遺伝子組換え食品等 |
| 6. 動物用医薬品 | 14. 新開発食品 |
| 7. 器具 容器包装 | 15. 肥料 飼料等 |
| 8. 汚染物質 | [16. 化学物質] |

事務局 (事務局長、次長、4課 1官)

総務課

評価課

勧告広報課

情報・緊急時対応課

リスクコミュニケーション官

食品のリスクアセスメント

- 人の健康に悪影響を及ぼすおそれがある**生物学的、化学的若しくは物理的な要因又は状態**であって、食品に含まれ、又は食品が置かれるおそれがあるものが当該食品が**摂取されることにより人の健康に及ぼす影響**についての評価
- その時点において到達されている水準の**科学的知見**に基づいて、**客観的かつ中立公正**に実施

要因又は状態の例

- 生物学的要因 食中毒菌、ウイルス、寄生虫など
- 化学的要因 農薬、動物用医薬品、添加物、重金属、カビ毒など
- 物理的要因 異物、放射線など
- 生物学的状態 菌叢、腐敗など
- 化学的状态 pHなど
- 物理的状态 温度など

食品健康影響評価
(平成15年7月1日～平成16年5月31日)

専門調査会名	既要請品目				
	評価終了	意見募集中	処理中	資料要求中	
添加物	31	19	0	4	8
農薬	120	18	0	77	25
（うち清涼飲料水）	93	0	0	74	19
動物用医薬品	16	9	2	4	1
化学物質	-	-	-	-	-
汚染物質	49	0	0	49	0
（うち清涼飲料水）	48	0	0	48	0
器具・容器包装	2	1	0	1	0
微生物	1	0	0	1	0
ウイルス	0	0	0	0	0
微生物・ウイルス合同	1	1	0	0	0
ブリオン	5	4	1	0	0
かび毒・自然毒等	2	1	0	1	0
遺伝子組換え食品等	13	2	1	7	3
新開発食品等	46	20	4	9	13
肥料・飼料等	6	5	0	0	1
動物用医薬品・肥料・飼料等合同	1	0	0	1	0
合計	293	80	8	154	51

専門調査会 (2003.7.1~2004.5.31)

◆ 合計開催回数：85回 (うち非公開25回)

企画：6回

リスクコミュニケーション：9回

緊急時対応：5回

添加物：9回

汚染物質：4回

遺伝子組換え食品等：13回

動物用医薬品：1回

微生物：2回

新開発食品：10回

農薬：1回

ウイルス：2回

肥料・飼料等：8回

器具・容器包装：3回

プリオン：9回

かび毒・自然毒：1回

◆ 食品健康影響評価について 評価結果数：80件

評価の基盤データ

◆ 疫学的研究

統合的な国としての持続性且つ大規模データの
集積と分析

◆ 動物実験研究

◆ 試験管内実験研究

規程の整備

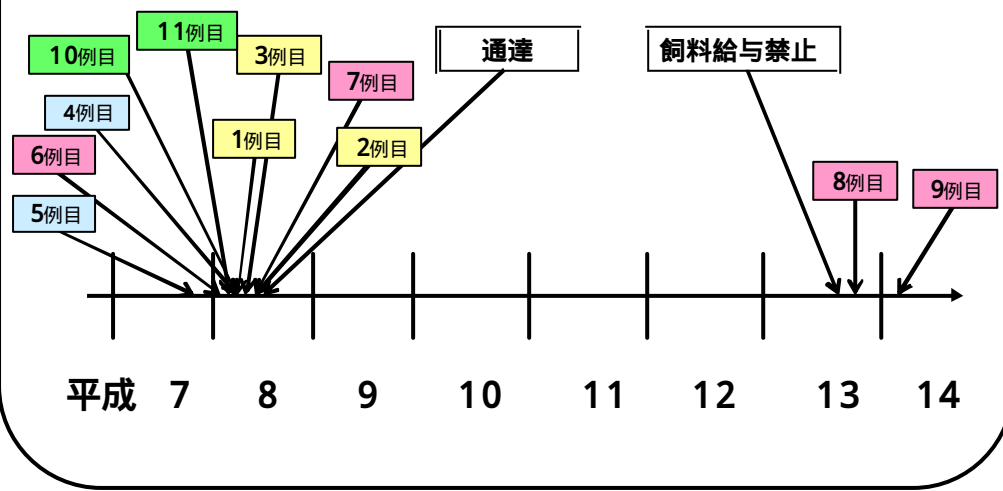
- ◆ 食品安全委員会運営規程・専門調査会運営規程
会議・議事録：公開
- ◆ 食品安全委員会における調査審議方法等について
利害関係者の出席・議決への制限
- ◆ 食品安全行政の円滑な推進のための規程
「食品安全基本法第21条第1項に規定する
基本的事項」
- ◆ リスク管理機関との連携に関する規程
食品安全行政に関する関係府省連絡会議

我が国で確認されたBSE感染牛の概要

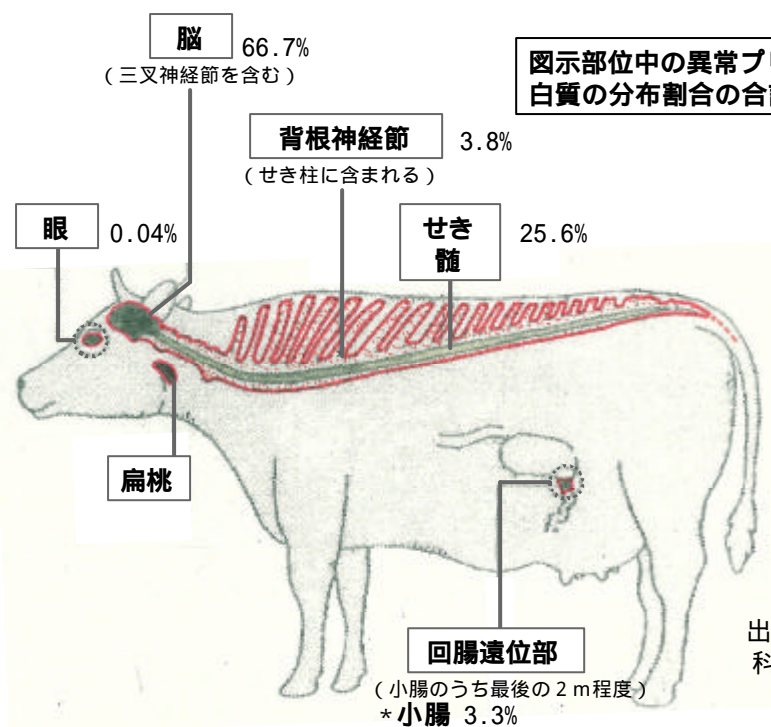
	発生年月日 (BSE陽性確認日)	飼育農場 (生産農場)	生年月日 (月齢)	臨床症状 (BSE症状を疑う症状)	処分場所	確認検査場所	確認検査結果			備考
							HP	IHC	WB	
1	H13.9.10	千葉県白井市 (北海道佐呂間町)	H8.3.26 (65)	起立不能・敗血症 (無し)	と畜場 (病畜と殺)	動衛研	+	+	+	
2	H13.11.21	北海道宗谷郡猿払村	H8.4.4 (67)	無し	と畜場 (健康畜)	帯広畜産大	-	+	+	
3	H13.12.2	群馬県勢多郡宮城村	H8.3.26 (68)	無し	と畜場 (健康畜)	横浜検疫 帯広畜産大	+	+	+	
4	H14.5.13	北海道白糠郡音別町	H.8.3.23 (73)	左前肢筋断裂・起立困難(無し)	と畜場 (病畜と殺)	帯広畜産大	+	+	+	
5	H14.8.23	神奈川県伊勢原市	H7.12.5 (80)	股関節脱臼・起立不能(無し)	と畜場 (病畜と殺)	国立感染研	-	+	+	
6	H15.1.20	和歌山県那賀郡 (北海道標茶町)	H8.2.10 (83)	起立障害(無し)	と畜場 (病畜と殺)	国立感染研	+	+	+	
7	H15.1.23	北海道網走市 (北海道湧別町)	H8.3.28 (81)	無し	と畜場 (健康畜)	帯広畜産大	-	+	+	
8	H15.10.7	福島県葛尾村(肥育) 栃木県大田原市(哺育) (栃木県塩谷町)	H13.10.13 (23)	無し	と畜場 (健康畜)	国立感染研	-	-	+	非定型的なBSE
9	H15.11.4	広島県福山市 (兵庫県水上郡)	H14.1.13 (21)	無し	と畜場 (健康畜)	国立感染研	-	-	+	
10	H16.2.22	神奈川県平塚市 (神奈川県秦野市)	H8.3.17 (95)	股関節脱臼・起立不能(無し)	と畜場 (病畜と殺)	国立感染研	+	+	+	
11	H16.3.9	北海道標茶町	H8.4.8 (94)	股関節脱臼・起立不能(無し)	家畜保健衛生所 (死亡牛サーベイ)	動衛研	+	+	+	

HP：病理組織学的検査法、IHC：免疫組織化学的検査法、WB：ウエスタンブロット法、+：陽性、-：陰性

BSE牛の生年月日



図示部位中の異常プリオンたん白質の分布割合の合計：99.44%



出典 欧州委員会
科学運営委員会
(1999年12月)

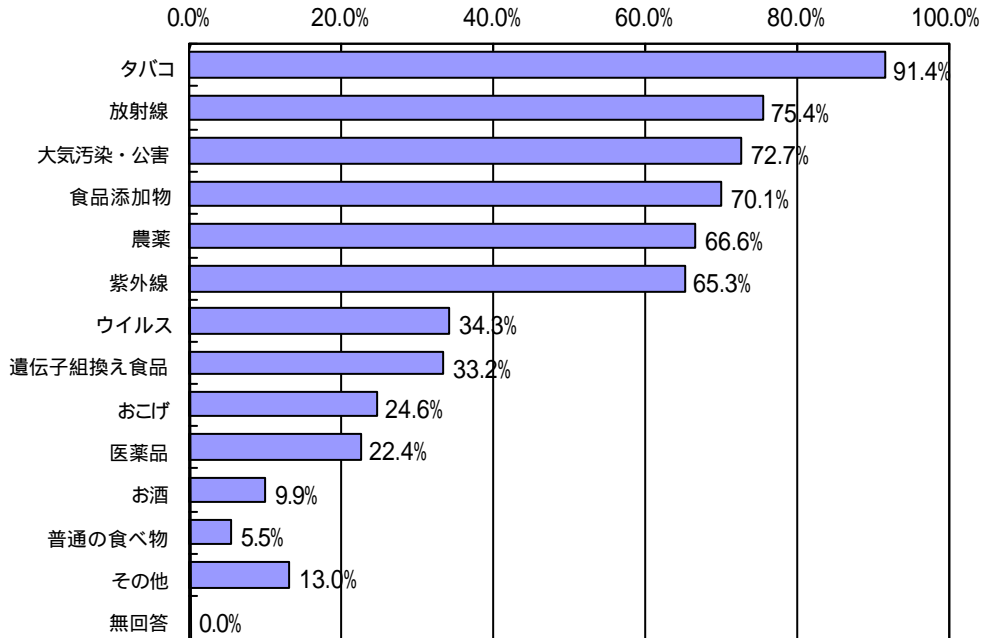
リスクコミュニケーション 民、信なくば立たず

- ◆ 関係者
 - ・リスクアセッサー、マネジャー
 - ・消費者、生産者、政府関係者、マスメディア、科学者
- ◆ 教育啓蒙
- ◆ 情報公開 - 透明度
- ◆ 不確実性も説明
- ◆ 双方向
- ◆ 説明責任 - 理解し易い言葉

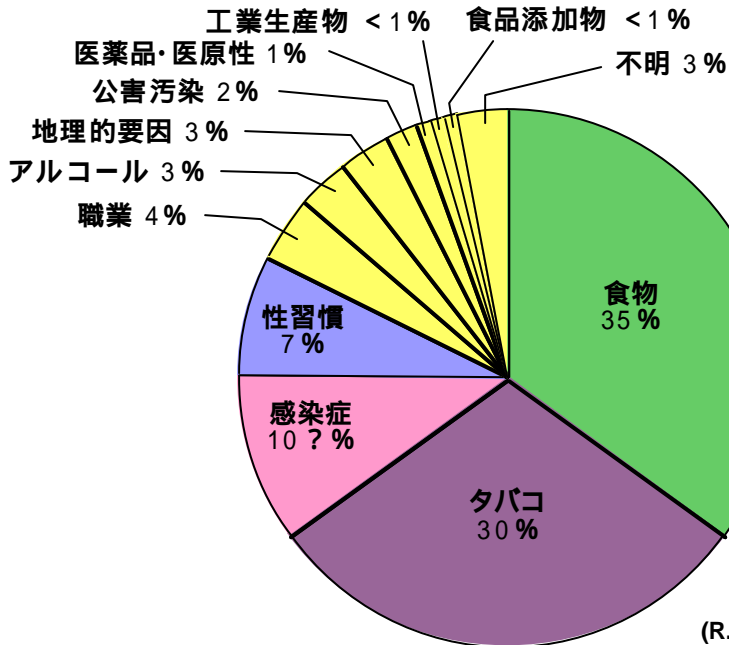
リスクコミュニケーション

- ◆ 食の安全に関するリスクコミュニケーションの現状と課題
- ◆ 意見交換会：38回 (平成15年7月1日~平成16年3月31日)
(食品安全委員会が単独で実施した講演会2回を含む)
- ◆ 食品安全委員会委員の各地での講演、意見交換会への参加
：5回 (平成15年7月1日~平成16年3月31日)
- ◆ 消費者団体、食品関連事業者、地方公共団体等と委員との
意見交換 ：16回 (平成15年7月1日~平成16年6月28日)
- ◆ リスクコミュニケーション担当者会議の実施 毎月2回程度
- ◆ 食品安全モニター会議：7回 (平成15年度)
- ◆ ホームページ、パンフレット
- ◆ 食の安全ダイヤル

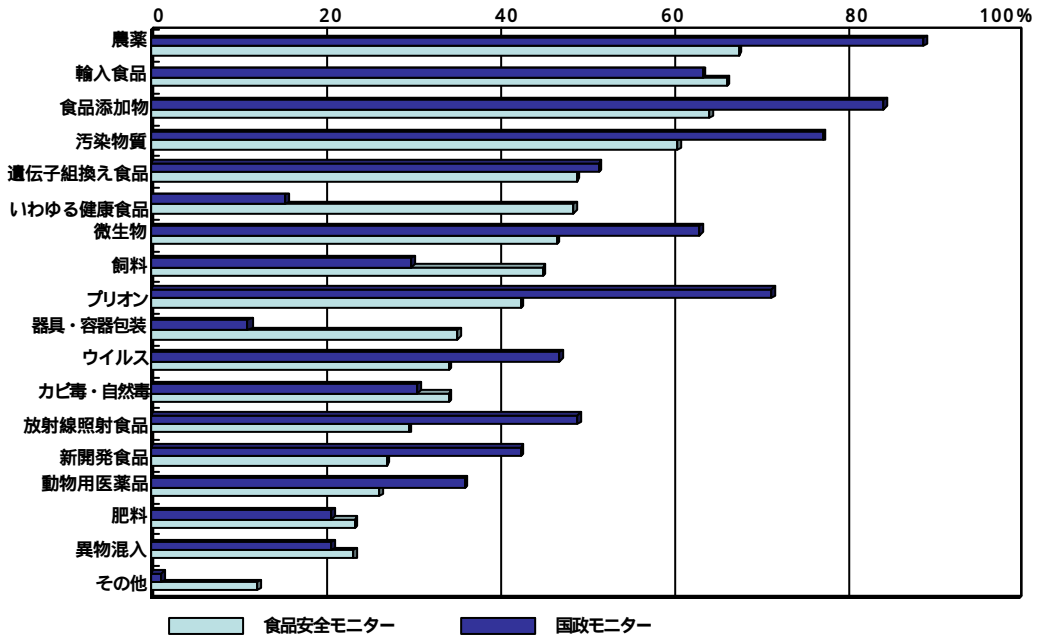
発がんの可能性が高いと感じる要因 (食品安全モニター)



ヒトのがんの原因



アンケート：食品の安全性の観点から不安を感じるもの



安全 安心

安全 人とその共同体への損傷、ならびに人、組織、公共の所有物に損害がないと**客観的に**判断されること

安心 個人の**主観的**な判断に大きく依存する。

安全 + 信頼 = 安心

安全 安心な社会の構築に資する科学技術政策に関する懇談会」

報告書より一部変更

(文部科学省 2004年 4月)

内閣府

食品安全委員会

🚩 ホームページ : <http://www.fscgo.jp>

🚩 TEL : 03 - 5251 - 9218

🚩 FAX : 03 - 3591 - 2237

🚩 「食の安全ダイヤル」 : 03 - 5251 - 9220・9221

〒100-8989

東京都千代田区永田町 2 - 13 - 10

プルデンシャルタワー 6F